

自律学習能力養成を目指した外国語指導の試み

—専攻外国語教育における学習戦略とポートフォリオの導入—

国際関係学科 宮谷 敦美

英米学科 デイビッド・ワッツ

ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻 人見 明宏

1. はじめに

従来、外国語教育の主な関心事は、「何を、どう教えるか」という教師主導の考え方によるものであった。しかし、近年では、学習者が、自身の学習をどう捉え進めていくかという「学習者要因」を考慮した指導方法が注目されるようになってきている。

専攻外国語教育のカリキュラムでは、学年が上がるにつれ、総じて開講授業数が減る傾向にある。その一方で、3年次以降の専門課程では学生自身が専門分野について外国語で調べる機会も増え、学習に必要な外国語能力を学生自身が「自分で、なんとかして」身につけていくことが求められる。そのため、1, 2年次には外国語の基礎力と共に、高学年での専門の学修に必要な外国語を「自律的に学ぶ能力＝自律学習能力」を養成することが重要である。このことから、私たち外国語教師の役割は、「学生の外国語能力を高めること」だけに重点を置くのではなく、「外国語学習に教師の必要がなくなること」を目指すべきであると言える¹⁾。

さらに、社会の変化の速さに対応するために、状況にあわせて必要な知識やスキルを自身で習得できる能力養成も重要である。

以上のような問題意識に立ち、筆者らは、2012年度前期に、学生の自律学習能力の養成を目指し、学習戦略とポートフォリオ(学習記録)を導入した指導実践を行った。本稿では、その実践を基に、学生の自律学習能力養成のために、専攻外国語教育で何をすべきか、考察を試みる。

2. 先行研究

2.1. 学習戦略

外国語教育は、従来、「何を、どう教えるか」という、教育する側からの研究が中心であった。だが、外国語教師であれば同じ内容を同じように教えても、学習者の取り組み方によりその到達度が大きく異なるということを経験的に知っている。このような学習者の要因に注目した初期の研究として、「優れた言語学習者の特徴」に関する研究(Rubin, 1975)がある。Rubin (1975)は、戦略を「学習者が知識を習得する際に用いる技術あるいは工夫(p. 43)」と定義し、優れた言語学習者に共通する戦略として以下の7点を挙げた(pp. 45-48)。

1. The good language learner is a willing and accurate guesser.
2. The good language learner has a strong drive to communicate, or to learn from a communication.

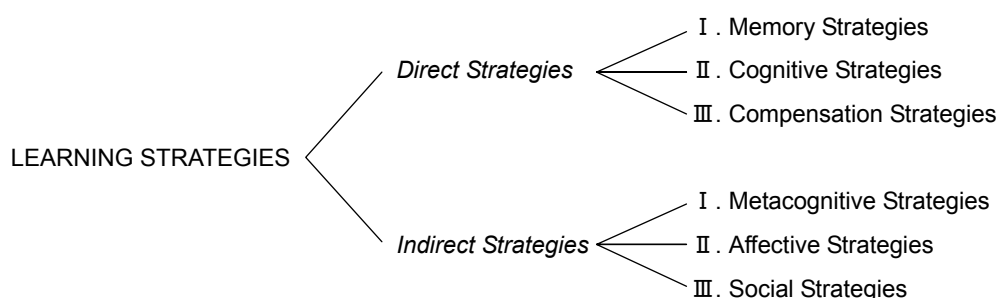
3. The good language learner is often not inhibited.
4. In addition to focusing on communication, the good language learner is prepared to attend to form.
5. The good language learner practices.
6. The good language learner monitors his own speech and the speech of others.
7. The good language learner attends to meaning.

Rubinの研究は、優れた学習者の一般的な特徴を挙げ、それを外国語学習を苦手とする学習者に教授すればよいという考えに基づいたものだった。その後、認知ストラテジーとメタ認知ストラテジーを提示したO'Malley & Chamot (1990)、ストラテジーシステムを体系化したOxford (1990)へと発展を遂げた²⁾。

本稿では、Oxford (1990)の言語学習ストラテジー(Language Learning Strategy, 以下LLS)の定義「学習をより易しく、より早く、より楽しく、より自主的に、より効果的にし、かつ新しい状況に素早く対処するために学習者がとる具体的な行動」(オックスフォード, 1994:pp. 8-9)を採用する³⁾。

Oxford (1990)は、LLSを目標言語に直接かかわる「直接ストラテジー」と言語学習を支える「間接ストラテジー」に大きく分け、それぞれ三つの下位項目を挙げている(図1)。

[図1:ストラテジーシステム一覧 (Oxford, 1990:p. 16)]



記憶ストラテジー(Memory Strategies)は、新しい情報の蓄積と想起を助けるストラテジーで、「知的連鎖を作る」「イメージや音を結びつける」「繰り返し復習する」「動作に移す」の四つに分類される(前掲:pp. 37-38)。認知ストラテジー(Cognitive Strategies)は、目標言語の操作と変換に用いられ、「練習する」「情報内容を受け取ったり、送ったりする」「分析したり、推論したりする」「インプットとアウトプットのための構造を作る」の四つである(前掲:p. 43)。補償ストラテジー(Compensation Strategies)は、外国語を理解したり発話したりする際に、足りない知識を補うために使うストラテジーで、これには「聞くことと読むことを知的に推測する」と、「話すことと書くことの限界を克服する」ことの二つがある(前掲:p. 48)。

間接ストラテジーの一種であるメタ認知ストラテジー(Metacognitive Strategies)は、学習者が自己の学習過程を調整する方法を提供する。メタ認知ストラテジーには「自分の学習を正しく位置づける」「自分の学習を順序立て、計画する」「自分の学習をきちんと評価する」の三つがある(前掲:p. 115)。情意ストラテジー(Affective Strategies)は、学習者の感情、動機づけ、態度を調整するのに役立つ(前掲:p. 114)、主なものに「自分の不安を軽くする」「自分を勇気づける」「自分の感情をきちんと把握する」がある(前掲:p. 119)。社会的ストラテジー(Social

Strategies)は、学習者がほかの学習者とのコミュニケーションをとおして学習していくのを助け(前掲:p. 114)、「質問する」「他の人々と協力する」「他の人々へ感情移入をする」の三つのストラテジーがある(前掲:p. 124)。

LLSは指導可能と考えられているが、一方で、学習者自身が現在用いているLLSを認識し、自分の学習目標を設定し、必要となる新しいLLSの必要性を自覚することが重要である。また、LLSには良い悪いといった区別はなく、学習者が自分の学習を理解し、現段階に最も適したLLSを選択できるようになることが必要である。そのため、LLSを外国語教育でどのように指導していくかが肝要である。

Cohen (1998)は、LLSのトレーニング方法として、Strategy-Based Instruction (SBI)を紹介している。SBIは、以下の手順で行う。

1. 効果的だと考えられるストラテジーを説明し、モデルを提示する
2. 学習者の経験に基づき、LLSを追加する
3. グループディスカッションでLLSを使用する理由について話し、実践したLLSの効果を評価する
4. さまざまなLLSを使用するように勧める
5. クラス活動のタスクにLLS使用を組み込む (Cohen, 1998:pp. 81-83)

一方、LLSの指導は、本来、自律的な学習者を生み出すためのものであるにもかかわらず外国語教育カリキュラムに組み込まれているため、本当の意味で学習者を「自律的に」することを阻んでいる可能性があるという指摘もある(斎藤/田中, 1999:p. 178)。そのため、LLS指導の際には、学習者が、目標言語を使い、どのようなインターアクションをしているのかを意識させることが重要である(田中/斎藤, 1993:p. 55)。

2.2. 学習ポートフォリオ

外国語学習者が自律的に学ぶことを支援するツールのひとつに、学習ポートフォリオがある。学習ポートフォリオは、学習者が学習経験、学習成果、成果物を記録、保存するためのものである(国際交流基金, 2009:p. 68)。学習ポートフォリオを作成することで、学習者が自らの学びのプロセスに省察を加え、証拠資料で裏づけることが、学生の自律的成長に何らかの効果を及ぼすと考えられている(小嶋/尾関/廣森(編), 2010:p. 146)。

欧州評議会はCommon European Framework for Reference of Languages(ヨーロッパ共通参照枠, CEFR)の理念を教育現場で実現するためにヨーロッパ言語ポートフォリオ(European Language Portfolio, ELP)を開発した。ELPは、学習者の言語能力を自己評価し、異言語・異文化体験を簡潔に示すための「言語パスポート」、言語学習履歴や、学習目標、異言語・異文化体験を詳細に記録する「言語バイオグラフィー」、学習成果や検定証明等を保存するための「資料集」から成る(国際交流基金, 2009:pp. 73-75)。

ポートフォリオの効果として、国際交流基金(2010)は、以下の4点を挙げている(p. 22)。

- 教師と学習者が学習目標と学習の過程を共有できる
- 学習者が自己評価や記録することにより、自律的学習能力や、学習の動機づけを高める
- 学習者が教室の中や外で学んださまざまな知識や技能の学習成果の評価ができる

- 学習者が他の教育機関に移動した際、それまでの学習成果を正確に伝えられる

今回の実践は、厳密に言うと、学習ポートフォリオを部分的に導入したものである。実践事例1では、学習者がLLS使用の観点から、自身の学習を内省した記録(ジャーナル)を学習ポートフォリオとして導入した。実践事例2は、予習用・復習用プリントと、学習者による学習のふりかえり記録を組み合わせたものを学習ポートフォリオとして取り入れたものである。

3. 実践事例 1: Communicative English II

3.1. 対象クラス

Communicative English IIは、外国語学部英米学科 2 年次必修専攻言語科目のひとつであり、グループワークやペアワークをとおして、リスニングとスピーキング能力を伸ばすことを目的としている。本実践クラスの受講者数は 22 名である。

コース中、4 回 LLS に関するセッションを設けた。

3.2. 指導の実際

LLS と学習ポートフォリオ(ジャーナル)に関する教室活動は以下のように実施した。

[実践の手順]

	教室活動	活動の目的
第 1 週	SILL の実施(日本語版) 英語学習の動機、およびビリーフ調査の実施	自身が英語学習をどのように捉えているかを理解する
第 2 週	LLS 導入, 前期目標とする LLS を設定	LLS を理解する 自分の学習目標などをふまえて, LLS を設定する
第 3 週～ コース終了	週に 1 回学習記録をつける	学習をふりかえり, 自己評価する 1週間の目標を設定する
第 8 週	ディスカッションと LLS 設定の見直し	前半の学習状況をふりかえり, 評価し, LLS を再設定する
第 14 週	SILL の実施(日本語版) ペアディスカッション LLS に関するアンケート調査の実施	コース当初と比べ, 英語学習の取り組み方に変化があったかを見る LLS を, 学生がどのように捉えているか知る

3.2.1. LLS の導入

第 1 週は、本コース終了時の到達目標や英語学習のビリーフについてグループディスカッションを行った。その後、Oxford (1990) の Strategy Inventory for Language Learning の日本語版である「言語学習のためのストラテジー調査(以後、SILL)⁴⁾」を実施した⁵⁾(巻末資料 1)。また、宿題として、到達目標やビリーフに関する自身の考えをまとめることを課した。

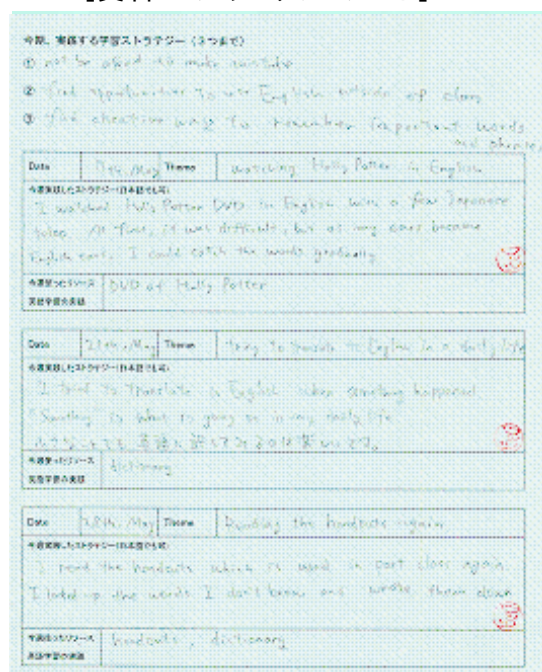
第2週は、教師が自身の日本語学習の体験を話し、LLSの重要性を解説したあと、LLSの具体例を提示した(巻末資料2)。このあと、学生は、自身の英語学習において、意識して用いるLLSを2,3設定し、ジャーナル・シート(毎週自身の学習をふりかえり、記録する用紙:資料1)の「今期、実践する学習ストラテジー」に記入した。

学生が設定したLLSの一例を下に挙げる。

[資料1:ジャーナル・シート]

- find opportunities to use English outside of class
- not be afraid to make mistakes
- use facial expressions or gestures when I cannot find the right English words
- read a lot in English, especially for enjoyment
- keep a language journal⁶⁾, diary or notebook
- record vocabulary and grammar points in a meaningful, systematic way

この段階では、学生の多くは、自身が今学期取り組むLLSを、教師が導入で紹介したLLSの例から選択して、目標を設定していた。



3.2.2. コース前半の学生の取り組み

第3週以降、コース終了まで、毎回の授業終了時に、学生自身が1週間に取り組んだ英語学習やその方法について、ふりかえり、記入する時間を5分程度もった。

前半の学生の記録を見ると、「今週は特になにもしなかった」とシートに何度か記述している学生もいたが、多くの学生は積極的に取り組んでいた。

「教室外で英語を用いる機会を見つける」目標に対して、実践したことを述べたり(例:“I spoke to a foreigner who came to the cake shop where I work.”)、さらに「英語を使うときに間違いを恐れない」という目標を立てた学生が、自身の英語使用について肯定的な記述をしていた(例:“I was not be afraid to make mistakes and talked with foreigner who can't speak Japanese when I worked part time job.”)。

さらに、自分が設定した目標以外に試してみたこと(例:ウォークマンによく使う表現や役に立つフレーズの入ったCDを入れて、電車の中で聞く)や、課題を自分のレベルに調整する学生(例:“I watched the movie in English. But I couldn't catch word with only voice, so I watched with subtitles.”)、自身が取り組んでいるLLSを評価する学生(例:“I watched the news on TV in English last weekend. I felt like it was really meaningful for me.”)など、LLSを積極的に学習に取り入れようという姿勢も見られた。

3.2.3. Mid-term discussion と課題の再設定

第8週に、これまで学生が取り組んできたLLSについて、ディスカッションを行ったあと、後半取り組むLLSを再設定した。

授業は、以下の手順で行った。(巻末資料 2)

- ①前半のジャーナル・シートを見ながら、自分の使った LLS についてペアで話し合う
- ②グループになり、ペアで話し合った情報を共有する。そして、自分が選んだ LLS について、よいと思ったものとその理由について考えを述べる
- ③前半のとりくみを自己評価し、後半の LLS を再設定する

ここで、②のグループディスカッションの一例を紹介する。学生 B は、自分が取り組んだ LLS 「英語を使う機会を探す」について、「スカイプやインターネットを用いることでこのような機会を見つけるのが容易になった」と、具体的な方策を述べている。また、学生 C は、自分が取り組んだ 3 つの LLS のうち、実際に行ったのは「楽しみのために英語を読む」ことであり、日本語版で読んだ経験のある『ハリー・ポッター』に取り組んだ経験について述べている。

[ディスカッションの例⁷⁾]

Student A: And what did you choose?

Student B: Err, the best one?

Student B: Hmmm, I think *find opportunities is my best choice because we live in Japan and we limited the opportunities to speak English out, so mmmm but err the technology is developing and we can find good opportunities for example through skype through internet and through yeah through everything, so we can easier to find opportunities than before and yeah, so that's why I choose this one... yeah how about you?*

Student C: *Err my strategies is are 'review work that I have finished' and 'read a lot in English especially for enjoyment' and 'keep a language journal', but erm I erm but I did only one; 'read l a lot in English.'*

Student B: So what's the title of the English book?

Student C: Harry Potter.

Student B: Oh good! Is that difficult?

Student C: *But maybe there are some words I didn't know, but I have already read it in Japanese, so maybe it's easier than*

Student B: Ah yeah yeah, so I've watched it and I've read it in Japanese, so could I?

Student C: Yes, maybe you could.

Student C: How about you?

Student A: I started reading Harry Potter too.

グループディスカッションのあと、学生は、ジャーナル・シートにコース前半の LLS の取り組みについて、自己評価をし、後半に取り組む LLS を再設定した。

自己評価には、LLS に取り組むことで、自分の英語使用に関して肯定的な変化が見られたこと(例:「ミスを怖れずに自ら話そうとできてよかった」)や、具体的な到達度(例:“I finished reading 3 books” “I think I have fear to make mistakes when I speak English yet” “I think it is not so important to raise English ability”),自分に適した LLS を再設定したほうがよいという考え(例:「文法的なポイントを記録するのは難しいので変えたい」, “I should change strategies that I can do easier”), LLS を変えずに取り組みたいという意見(例:“I do not change it because

it is so important. I did good”)などの記述があった。

後半にむけて再設定した LLS は、“I study English for TOEIC test” “listen to CDs of English every day” “record my English and improve” など、教師が LLS の導入の際に紹介したのではなく、学生自身が設定したものもあり、LLS を自身の学習課題として認識していることがうかがわれた。

3.2.4. コース終了時における学生の LLS 使用

第 14 週に、LLS の取り組みについて、ペアディスカッション(巻末資料 2)を行ったあと、LLS 指導に関するアンケート調査を実施した。また、LLS 使用の変化を見るために、第 1 週に実施した SILL を再度行った。以下、調査内容と結果について述べる。

まず、LLS 指導に関する調査結果について述べる。今学期の LLS 指導をとおして、学生が自身の英語学習において LLS をどのように位置づけ、使用しているかについて明らかにすることを企図し、六つの設問を立てた。回答は 5 段階の選択肢(1 強くそう思う, 2 そう思う, 3 どちらとも言えない, 4 そう思わない, 5 まったくそう思わない)による。受講生 22 名全員が回答した。

- 設問 1 I knew about LLSs before the LLS sessions. (指導前の LLS の知識の有無)
- 設問 2 I thought the LLS sessions were useful. (LLS に関する授業の有用性)
- 設問 3 I was able to use a new LLS this semester. (LLS 習得度の自己評価)
- 設問 4 I tried a variety of LLSs this semester. (LLS 使用へのチャレンジ)
- 設問 5 LLSs are important to me as a student of English. (LLS の重要性の認識)
- 設問 6 I will continue to use LLSs in the future. (LLS 使用の意欲)

結果は以下のとおりである。

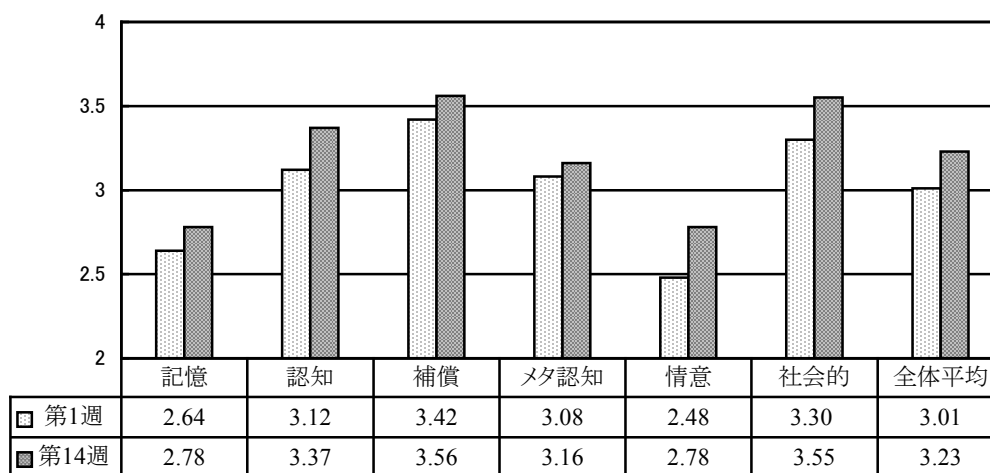
[表 1: LLS 指導に関する調査結果]

質問文	1	2	3	4	5
設問 1 指導前の LLS の知識の有無 I knew about LLSs before the LLS sessions.	1	3	3	8	7
設問 2 LLS に関する授業の有用性 I thought the LLS sessions were useful.	4	18			
設問 3 LLS 習得度の自己評価 I was able to use a new LLS this semester.	3	12	7		
設問 4 LLS 使用へのチャレンジ I tried a variety of LLSs this semester.		10	6	4	2
設問 5 LLS の重要性の認識 LLSs are important to me as a student of English.	9	12	1		
設問 6 LLS 使用の意欲 I will continue to use LLSs in the future.	5	12	5		

選択肢 1(強くそう思う)～選択肢 5(まったくそう思わない)

設問 1 は、回答にばらつきが見られたものの、知らなかったという回答(4, 5 を選択)が全体の 68% を占めた。LLS の知識に関しては個人差があったが、LLS に関する授業の有用性については、100% (設問 2) が認めていた。設問 3 と 4 より、実際に LLS が使えると自己評価した学生は 68% (設問 3 で 1, 2 を選択) と過半数を占めたが、実践した LLS の種類については、限定的であると言える。コース後半には、自身の学習をふりかえり、新たな LLS 使用に取り組む学生もいたが、最初に設定した LLS をそのまま継続したり、自分に向いていないと考える LLS 使用を断念した学生が大半を占めたことから納得できる結果である。しかしながら、設問 5 は 95% の学生が LLS の重要性を認めており(1, 2 を選択)、設問 6 から、今後も継続して LLS を使おうと考えている学生が 77% (1, 2 を選択) であることから、学生が LLS の使用を肯定的に受け止めているということが明らかになった。

[グラフ 1: SILL 平均点の変化] (n=22)



次に、第1週と第14週のSILL結果について述べる(グラフ1)。SILL調査は、学習者のLLSの使用傾向を見るためのものであり、全50問から成る(巻末資料1)。設問は、5段階の選択肢である(5 常に、ほとんどあてはまる、4 そうであることが多い、3 半分ぐらいあてはまる、2 半分以下しかあてはまらない、1 全然、ほとんどあてはまらない)。アンケートは集計後、Oxford (1990: pp. 298-300) の結果産出方法に従って、各ストラテジーの合計点の平均を算出、比較した。

全てのカテゴリーにおいて、平均点が上がっていたが、ノンパラメトリック検定であるWilcoxon検定で評価したところ、カテゴリー平均値の推移に有意差は認められなかった(P < 0.05)。

項目ごとの数値を見ると、設問1, 5, 17, 40の4項目については、有意差が認められた(表2)。設問17「英語でメモ、メッセージ、手紙、報告を書く」は、認知ストラテジーの項目(設問10～23)のうち、「目標言語を使って学ぶ」ことに焦点が当てられた項目である。今回の実践では、“Keep a language journal, diary, or notebook”というLLS使用を目標にした学生が前半9名、後半8名いたことや、コース終了時のインタビューに「Facebookやtwitterに英語で書いてみた」「スケジュールはできるだけ英語で書き込むようにした」などと述べていた学生が多かったことから、意識的にLLSを使っていたことの表れではないかと考えられる。また、設問40「間違いを恐れ

ず、英語を話すように自分を元気づけている」は、「Not be afraid to make mistakes」を目標にした学生が前半16名、後半9名おり、英語を話す際に意識していたことが、数値に現れたと考えられる。

[表2: SILL平均点推移に有意差があった設問]

設問	第1週	第14週
設問1 英語ですでに知っていることと、新しく学習したこととの関係を考える	2.73	3.36
設問5 新しい単語を覚えるのに、韻(似たリズムや、音の並びなど)を使う	2.41	2.95
設問17 英語でメモ、メッセージ、手紙、報告を書く	2.55	3.27
設問40 間違いを恐れず、英語を話すように自分を元気づけている	2.91	3.45

今回学生が選択したLLSには、記憶ストラテジーはなかった。それにもかかわらず、記憶ストラテジーの設問1「英語ですでに知っていることと、新しく学習したこととの関係を考える」と設問5「新しい単語を覚えるのに、韻(似たリズムや、音の並びなど)を使う」の変化は有意であった。この点については、今後さらに分析を進める必要があるが、本実践のLLSと学習記録の導入により、学生が自身の学習そのものを意識的に捉えるようになったこと、また、学生が今学期に設定したLLSの多くが認知ストラテジーであった(前半のべ22名、後半のべ22名)ことから、LLS実践の中で、効果的に覚えるために、学習内容を整理し、知的連鎖を作ろうとしていた表れではないか推測される。

最後に、コース終了時に、学生がジャーナルに書いたコメントを紹介する。

- I enjoyed using LLS strategies outside of class because they were realistic and my own choices. These reminded me the importance of English learning every single week. Actually, I changed some of these because I made some customs without noticing. I would like to use the phrases which I learned in this course and LLS strategies in my daily life.
- ストラテジーは授業外で英語を勉強する機会を提供してくれた。
- この紙を毎回書くことも有意義だと感じました。より英語を意識できていたと思います。

上記のコメントからも、LLSと学習ポートフォリオ(ジャーナル)の導入が、学生自身が学習を意識化し、学習に責任を持つ態度を育成するきっかけになりうると期待できる。授業中の学生の語りやアンケートを見る限り、LLSとジャーナルライティングについて、ほとんどの学生が肯定的に捉えていることが分かったが、英語運用能力全般に有用かどうかについては、継続的な実践と検証が必要である。

4. 実践事例 2:ドイツ語 I (総合)文法

4.1. 実践の概要

「ドイツ語 I (総合)文法」は、ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻 1 年次必修専攻言語科目のひ

とつであり、文法の説明と練習問題をとおして、初級文法を習得することを目的としている。本実践クラスの受講者数は19名である。

本実践に関する活動は以下のように行った。

	活動内容
第1週	学習戦略(LLS)導入のためのプリント配布 「ドイツ語学習の目標調査」および「言語学習のための戦略調査(SILL)」の配布
第2週	「ドイツ語学習の目標調査」および「言語学習のための戦略調査(SILL)」の回収
第2週～第14週	1週間分の学習について記録する(次の授業で提出)
第4週	SILL 調査の分析結果の配布
第7週	学習記録のフィードバックの配布(第1回)
第13週	学習記録のフィードバックの配布(第2回)
第14週	学習記録のアンケートの配布
第15週	学習記録のアンケートの回収

4.2. 「ドイツ語学習の目標調査」について

第1週の「ドイツ語学習の目標調査」は、学生自身がドイツ語学習をどのように位置付けているのかを明らかにすると同時に、学生自身の学習目的と到達目標を意識化させるために実施したものである。

以下に、「ドイツ語学習の目標調査」の質問項目を挙げる。

- ・質問 1) あなたは何のためにドイツ語を学習しますか。
- ・質問 2) 大学卒業時に、あなたのドイツ語能力がどの程度でありたいと思いますか。四技能別に「～ができる(例:ドイツ語の新聞が読める)」と、具体的に書いてください。
- ・質問 3) この1年間で特に伸ばしたいことについて書いてください。そのために何ができそうですか。(例:基本語彙を1000覚える。i-phoneで単語帳を作って通学中に覚える)
- ・質問 4) 自分がしてきた外国語(英語)学習で、よい方法だと思うものを自由に書いてください。(例:何度も紙に書いて覚える,単語帳を作って通学途中に見る)

次に、学生の回答例を紹介する。

質問 1) に対しては、「ドイツに興味があるから」「ドイツについて理解するため」「ドイツまたはドイツ語圏に住むため」「英語と日本語だけでなく、ドイツ語も話せるようになるため」「異文化交流のため」などの回答があった。

質問 2) に対しては、「話すこと」と「聞くこと」に関して、「ドイツで生活できる」「日常会話がスムーズにできる」「ドイツ語を使って仕事ができる」、「話すこと」に関して、「ドイツ人と議論ができる」、「聞くこと」に関して「ドイツ語のニュースを聞きとれる、内容を理解できる」「ドイツのドラマや映画を見ることができる」といった回答があった。また「読むこと」に関して、「ドイツ語の小説などを読むことができる」「ドイツの新聞を読むことができる」「学術誌や論文をある程度読むことができる」、「書くこと」に関して、「自分の意思を伝えることができる」「手紙やメールを書くことが

できる」「文法的に正しい文を書くことができる」「レポートや論文などを書くことができる」、「書くこと」と「聞くこと」に関して、「将来、翻訳者になれるくらい」などの回答があった。

質問3) に対しては、「単語を覚える」「基本文法を習得する」「予習・復習を欠かさず行う」「ドイツ語の発音・会話を聞く」「ドイツ語のアプリを利用する」といった回答があった。

質問4) に対しては、「音読」「単語帳を作り、単語を覚える」「書いて覚える」「声に出しながら書く」などの回答があった。

学生の回答を見ると、学生のドイツ語学習の動機は「ドイツに対するあこがれ」や「ドイツ語を話せるようになりたい」という曖昧な意識であり、ドイツ語習得の目標も「日常会話ができる」「ドイツ語で仕事ができる」といった漠然としたイメージからの回答が多い。このことから、具体的にドイツ語を使って何をするかという意識にも結びついていないように見受けられる。また、具体的な学習目標がないため、質問3の回答も授業で学ぶこと(単語を覚える、基本文法を習得する)という「無難な」目標と、彼らにとってなじみのある勉強方法の列挙に留まっている。外国語学習では、学習者自身が学習目標を設定し、それに向かってどのような方法で学習を進めればよいか計画、検証していくプロセスが重要である。今回の調査結果から、学生が大学入学時に専攻外国語であるドイツ語学習の目的や目標を設定するなど、学習の動機づけとなるガイダンスを行うことが、自律的な学習を促すためにも必要であると考えられる。

4.3. 「学習記録」について

「ドイツ語 I (総合) 文法」では、予習用プリントと復習用プリントの提出を課している。予習用プリントには、予習の際に、学生が各課の重要な点をまとめたものを記載して、これを授業時に提出する。復習用プリントには、授業で実施した練習問題の正答を含むドイツ語の部分すべてを書いて、これを次週の授業時に提出する。教員は、両プリントとも訂正を加え学生に返却する。これらの課題は、学生に予習と復習を義務づけることだけでなく、予習用プリントは、予習時にその課で何を学習するのか、その課で重要なポイントは何であるのかを考えることを、復習用プリントは、ドイツ語の綴りや構文などに慣れることを目的としており、それらを書きためていくことで、学生が自身のドイツ語学習の履歴をふりかえることができるようにするためのものである⁸⁾。2012年度は、これに加えて、1週間ごとの学習をふりかえり、達成した点および次の目標を記載する「学習記録(ポートフォリオ⁹⁾)」を実施した。

以下では、学習記録に学生が記載する内容と、その際の実施方法などについて述べる。まず学習記録に記載する内容は、学生各自が自己の学習方法を意識化し、実際に行った学習をふりかえるための「学習方法」、学習結果として「理解できたこと」などおよび次の学習目標を明確にするための「問題点・次の目標」などの3点に絞った。この記録をつけることにより、自分が学習の主体であるという意識を持たせて、学習を継続させるように方向づけることができると考えた。以下が、実施した項目である。

学習ポートフォリオ(月 日～ 月 日)(文法・講読・会話のすべての授業に関して)

- この1週間ドイツ語を勉強したときに実践した勉強方法、工夫したこと、試してみたことなど
- この1週間ドイツ語を勉強して、理解できたこと、覚えたこと、進歩したことなど
- この1週間ドイツ語を勉強したときに感じた問題点、分からなかったこと、次の目標など

2012年度前期は、途中の中間試験(第8週)を除き、計12回学習記録をつけた。学生によ

っては記録を提出しない週もあり、平均して7割程度が学習記録への記載をしていた。以下に、学生の記載例を二つ挙げる。また巻末資料3は、学生が提出した学習記録の例である。

記載例1:第10週(6月20日)提出分より

・この1週間ドイツ語を勉強したときに実践した勉強方法、工夫したこと、試してみたことなど
介詞の覚え方と文法の復習。
・この1週間ドイツ語を勉強して、理解できたこと、覚えたこと、進歩したことなど
文法の再確認
・この1週間ドイツ語を勉強したときに感じた問題点、分からなかったこと、次の目標など
覚える単語が多いように見えるが、意外な単語が多く文法は覚えやすい と思った。単語を多く覚えられるようにしたい。

記載例2:第12週(7月4日)提出分より

・この1週間ドイツ語を勉強したときに実践した勉強方法、工夫したこと、試してみたことなど
④ 予習に力を入れたら、その時点で合点なめた箇所も 授業で集中して聴けた。
・この1週間ドイツ語を勉強して、理解できたこと、覚えたこと、進歩したことなど
⑤ 講義で見たことの単語は、丸々の意味が合点するようになった。
・この1週間ドイツ語を勉強したときに感じた問題点、分からなかったこと、次の目標など
⑥ もっと単語を覚える。(毎日、少しでも確認する)

学生が書きためた学習記録を基に、前期に2回(第7週および第13週)、フィードバックプリントを作成し学生に配布した(巻末資料4)。このフィードバックプリントには、学習記録から他の学生も共有したほうがよいと考えられる学習方法をまとめたものと、学生の学習に関する問いに対するアドバイスなどを記載した。フィードバックを行うことにより、他の学生が実践している学習ストラテジーを共有することができ、また教師自身も学生の学習状況をより詳しく把握することが可能となる。後述するが、このフィードバックにより、新たな学習方法に取り組んだ学生もあり、一定の効果があつたと考えられる。

4.4 「学習記録」に関するアンケート

前期終了時に、学習記録に関するアンケートを実施した。その目的は、学習記録の有効性を学生自身がどのように評価しているのかを知り、今後の授業改善を図ることにある。

アンケートは、第14週に、アンケート用紙を配布し、第15週に回収した。受講生19名全員

が提出した。アンケートは無記名で、印象評価に関する質問は、5段階の選択肢(①強くそう思う, ②そう思う, ③どちらとも言えない, ④どちらかと言うとそう思わない, ⑤まったくそう思わない)を設定した。一部は記述回答も含まれる。

4.4.1. アンケート結果

以下に学習記録に関するアンケートの質問項目とそれに対する回答を挙げる。

1. 学習ポートフォリオをつけることで、あなたは自分の学習方法について考えるようになりましたか？

① 0人 (0%)	② 12人 (63.2%)	③ 4人 (21.1%)	④ 3人 (15.8%)	⑤ 0人 (0%)
-----------	---------------	--------------	--------------	-----------

2. 学習ポートフォリオをつけることで、あなたは自分の学習方法を改善したと思いますか？

① 0人 (0%)	② 7人 (36.8%)	③ 8人 (42.1%)	④ 4人 (21.1%)	⑤ 0人 (0%)
-----------	--------------	--------------	--------------	-----------

3-1. 学習ポートフォリオをつけることをとおして、あなたが新しく実践した勉強方法や工夫はありましたか？

① 10人 (52.6%) ⇒ 3-2を教えてください	② 9人 (47.6%)
-----------------------------	--------------

3-2. 新しく実践した勉強方法や工夫は何ですか？具体的に書いて下さい。

- ・ 苦手な所を意識するようになった。
- ・ 声に出しながら書く(→頭に入りやすい！)
- ・ ドイツ語を聞きつつ発音しつつ何度も書く。
- ・ アプリでドイツ語アプリを取った。
- ・ よく間違える文法事項は小さなサイズのノートにまとめていつでも持ち運ぶようにする。

4. 学習ポートフォリオの内容をまとめたプリント(2回分)の内容は役に立ちましたか？

① 4人 (21.1%)	② 13人 (68.4%)	③ 2人 (10.5%)	④ 0人 (0%)	⑤ 0人(0%)
--------------	---------------	--------------	-----------	----------

5-1. 学習ポートフォリオの内容をまとめたプリント(2回分)を読んで、他の人の学習方法で、あなたが実際に取り入れたものがありましたか？

① 7人 (36.8%) ⇒ 5-2を教えてください	② 12人 (63.2%)
----------------------------	---------------

5-2. 他の人の学習方法で、あなたが実際に取り入れたものは何ですか？具体的に書いて下さい。

- ・ できるだけ書いて書いて書いて勉強する。
- ・ 格を意識する。
- ・ ドイツ語のアプリをとる。
- ・ 単語帳を作って通学の電車で覚える。
- ・ ドイツ語のラジオ等を聴いて耳慣れしておく。

6-1. これから学習するときに、試してみたい学習方法はありますか？

① 11人 (57.9%) ⇒ 6-2を教えてください	② 8人 (42.1%)
-----------------------------	--------------

6-2. 試してみたい学習方法は何ですか？具体的に書いて下さい。

- 左に独作文を, 右に和訳を書いていく。
- 教科書付属の CD を使う。
- 新出単語を単語ノートに書き加えること。
- スマホのアプリで単語帳。
- ipod に教材の CD を入れて, 通学中に聴き, 普段からネイティブのドイツ語に慣れる。
- NHK のドイツ語講座。

7. 学習ポートフォリオをつけることで, 自分のドイツ語の進歩を感じることができましたか？

① 0 人 (0%)	② 10 人 (52.6%)	③ 6 人 (31.6%)	④ 3 人 (15.8%)	⑤ 0 人 (0%)
------------	----------------	---------------	---------------	------------

8. 学習ポートフォリオをつけることで, あなたの次の学習目標や問題点は明確になりましたか？

① 2 人 (10.5%)	② 12 人 (63.2%)	③ 3 人 (13.8%)	④ 2 人 (10.5%)	⑤ 0 人 (0%)
---------------	----------------	---------------	---------------	------------

9. あなたは今後もドイツ語の授業で学習ポートフォリオをつけていきたいですか？

① 1 人 (5.3%)	② 8 人 (42.1%)	③ 7 人 (36.8%)	④ 3 人 (15.8%)	⑤ 0 人 (0%)
--------------	---------------	---------------	---------------	------------

10. その他, 学習ポートフォリオに関してあなたが感じたこと, 要望などがあれば, 自由に書いて下さい。

- 毎週新しいこと(勉強法)を取り入れるのは少し無理があつて, どう書けばいいのかわからない¹⁰⁾。
- 質問に対しての答えがあるとうれしいです¹¹⁾。

4.4.2. 実践の評価と課題

以下では, 学習記録に関するアンケートの結果を分析し, 学生による本実践の評価および今後の課題について述べる。

まず, 設問 1 に関しては, 63.2% (②を選択) が肯定的に捉えており, 学習記録をつけることが, 学習方法について意識して考える契機になっていると言えるが, その一方で, 設問 2 (学習ポートフォリオをつけることで, あなたは自分の学習方法を改善したと思うか) に対して, 肯定的な回答が 36.8% (②を選択) に留まっていることから, 学習方法の具体的な改善にまでは至っていないことが分かる。ただし, 設問 3-1 (学習ポートフォリオをつけることをとおして, 新しく実践した勉強方法や工夫があるか) に対する回答から, 約半数 (52.6%) の学生が, 学習記録をつけることをとおして, 新しい学習方法を実践したり, 学習方法に工夫をしていることがうかがえる。

設問 4 (フィードバックプリントは役に立ったか) に対しては, 肯定的な回答が 90% 近く (①②を選択) あり, 学習記録のフィードバックが有効であると判断できる。フィードバックの有効性に関しては, 特に他の学生の学習方法について情報を共有できる点にある。これは, 設問 5-1 (他の人の学習方法で取り入れたものがあるか) および設問 5-2 (その具体例) に対する回答から, このフィードバックをとおして, 他の学生の学習方法を約 3 分の 1 (36.8%) の学生が実際に取り入れていることや, 設問 6-1 (これから試してみたい方法はあるか) に対する肯定的回答も

57.9%あり、具体例として示された学習方法に、他の学生が実践しているものが含まれていることから、他の学生の情報を重視していることが分かる。

設問 7(学習ポートフォリオをつけることで、ドイツ語の進歩を感じられたか)について学習記録をつけることが自身のドイツ語運用能力の向上に直接結びついていると実感している学生は、52.6%(②を選択)に留まっているが、設問 8(学習ポートフォリオをつけることで次の学習目標や問題点は明確になったか)については、学習記録をつけることが次の学習目標および自身の問題点を明確化することに有効であると判断している学生が 73.7%(①②を選択)いた。設問 7, 8 の結果から、学習目標や問題点を意識するのに学習ポートフォリオは役に立っていると思われるが、学習そのものに効果があると捉えている学生が約半数に留まったことから、設問 9(これからも学習ポートフォリオをつけていきたいか)に対する肯定的回答が約半数(47.4%)に留まっているのではないかと考えられる。

以上の分析結果から、学生は学習記録をつけることが、特に「自身の学習方法について考える」「新しい学習方法を実践・工夫する」「フィードバックを通じて他の学生の学習方法を知る」「次の学習目標および自身の問題点を明確化する」という点で、外国語学習に有効な手段であると評価していると判断できる。ただし、本アンケートを実施したのが、1 年次の前期終了時ということもあり、学習記録の効果については、実感できていないのかもしれない。2012 年度後期終了時に再度アンケートを実施し、学生の意識に変化があるか継続的に調査していきたい。

次に、担当教員から見た学習記録の有効性と課題に関して言及する。まず有効性であるが、ひとつには、学生の学習方法に関して、スマートフォンのアプリなど、外国語学習に利用できる新しいツールを知ることができたことが挙げられる。この点に関しては、学生もフィードバックから情報を得て、新たな学習方法を取り入れている。次に、学生の理解度をより詳しく知ることができたことである。特に、学生が理解できていない文法事項を把握することができ、授業での説明に活かすことができる点は、教授者にとって意味が大きい。一方、今後の課題に関しては、学習記録に記載する内容、実施方法(提出方法)およびフィードバックについて再検討し、より効果的に授業や学生自身の学習に取り入れることができるようにすることが必要である。

5. まとめと今後の課題

本稿では、学生の自律学習能力の養成に効果的であると言われている LLS と学習ポートフォリオを学生にとって初習外国語であるドイツ語と、既習外国語である英語クラスで導入し、その効果と課題について指導実践を基に考察を試みた。

アンケート結果から、LLS の使用を意識化した学習について、学生が肯定的に捉えていることが明らかになった。また英語クラスの実践では、実際に学生の LLS 使用が増えているという結果も観察された。LLS について学び、自身の学習を記録することは、学生が自身の学習を管理する意識づけに役に立っているといえるだろう。反面、オックスフォード(1994)が指摘しているように、LLS は数多く使えばよい学習ができているというわけではなく、学習者の個性や目的に応じて適切な LLS を使うことのほうが重要であるという点も忘れてはならない。

本実践で学生が意識して使うようになった LLS は、直接ストラテジーが多く、間接ストラテジーについては、あまり言及がなかった。これは、間接ストラテジーが意識されにくいという性質もあるが、学生が実際に学習言語を使用する場面を想定しにくいことも一因ではないかと推測さ

れる。宮崎 (1999) は、間接ストラテジーは習得過程で果たす役割が大きいにもかかわらず理論的フレームが未開発であると指摘している (p. 38)。実際の言語使用を意識化させることは、言語学習の強い動機づけになり、また、「ネットワークを形成する」ことや「ネイティブスピーカーと友達になる」といった社会的ストラテジーを活性化させることにもつながっていくだろう。これらの解決には、4.2. で述べたように、学習の動機づけのための入学時ガイダンスを行うことや、教室外での実際の言語使用につながった言語学習を学生がイメージできる授業デザインをすることが必要である。

本稿で紹介した、LLS と学習ポートフォリオを導入した授業実践は、最終的には学生が「教師から卒業して」自分で学習し続ける能力を身につけることを目標にしているが、授業に位置づけられているという点で、自律的ではない、とも言える。この矛盾を解消するために、教師が学生にどんな学習環境をデザインし提供していけるか、今後も考え続けていきたい。

[注]

- 1) Cohen (1998) *Strategy-Based Instruction (SBI)*, pp. 81-83.
- 2) O'Malley & Chamot (1990) や Oxford (1990) の研究は、ストラテジーをグループに分類し提示している。O'Malley & Chamot (1990) はストラテジーを、学習を計画し、モニタリング、評価を行う「メタ認知ストラテジー」と、取り入れたインプットの処理のしかたに関する「認知ストラテジー」、間接的に学習を支援する「社会・感情ストラテジー」に分類した。
- 3) Oxford (1990) 所収の *Strategy Inventory for Language Learning* という質問紙を用い、授業実践で学習ストラテジー診断を実施したことも、本稿で Oxford (1990) の定義を採用した理由のひとつである。
- 4) オックスフォード (1994) を基に、質問の意味を変えず、文体や語彙を平易なものに書き直した。例) 原文「英語の章節をまずスキミング(ざーっと読みとる)し、再び、前に戻って注意深く読む。」⇒書き直し後「英語の文章を読むときは、まず、ざっと全体を読みとって、もう一度、最初に戻って注意深く読む」
- 5) 第1週の授業終了時に回収し、第3週に解説と共に結果を返却した。同様の調査を第14週にも実施し、結果を比較した。
- 6) 学生個人が付けている日記を指している。
- 7) 文字化資料は、読みやすさを重視するため、発話の繰り返し部分を削除した。なお、イタリックは、LLS の使用に関する語りを指す。
- 8) 2.2. 学習ポートフォリオのうち、「言語バイオグラフィー」にあたる。
- 9) 学習ポートフォリオとは、上述のように、学習者が学習経験、学習成果、成果物を記録、保存するためのものを指す。本実践で取り入れたのは「学習記録」のみであるが、学生には「学習ポートフォリオ」という名称を使って実施した。
- 10) 学習ポートフォリオには「ドイツ語を勉強したときに実践した勉強方法、工夫したこと、試してみたことなど」とあり、必ずしも新しい勉強方法である必要はない。この点に関しては、後期第1週の授業で学生全員に再度周知した。
- 11) この点に関しては、後期第1週の授業で、質問には可能な限り答えていくが、授業中にも質問をするように促した。

[参考文献]

- Chamot, A.U. (2004) *Issues in Language Learning Strategy Research and Teaching*, Electronic Journal of Foreign Language Teaching 2004, Vol. 1, No. 1, pp. 14-26.
- Cohen, A. D. (1998) *Strategies in Learning and Using a Second Language*, Longman.
- Cohen, A. D. & Macaro, E. (eds.) (2007) *Language Learner Strategies*, Oxford University Press.
- Council of Europe (2001) *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*, Cambridge University Press. (邦訳:吉島茂 / 木島理枝(編訳)(2004)『外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社)
- Ellis, R. (1997) *Second Language Acquisition*. Oxford University Press. (邦訳:ロッド・エリス(著), 牧野高吉(訳)(2003)『第2言語習得のメカニズム』ちくま学芸文庫)
- 国際交流基金 (2009)『JF 日本語教育スタンダード試行版』国際交流基金
- 国際交流基金 (2010)『JF 日本語教育スタンダード 2010 利用者ガイドブック(第2版)』国際交流基金
- 小嶋英夫 / 尾関直子 / 廣森友人(編)(2010)『成長する英語学習者－学習者要因と自律学習』大修館書店
- 宮崎里司 (1999)「最近の学習ストラテジー研究のいくつかの動向」宮崎里司 / J. V. ネウストプニー(編)『日本語教育と日本語学習－学習ストラテジー論にむけて－』pp. 37-52, くろしお出版
- O'Malley M. & Chamot, A. U. (1990) *Learning Strategies in Second Language Acquisition*. Cambridge University Press.
- Oxford, R. L. (1990) *Language Learning Strategies: What every teacher should know*. Heinle and Heinle. (邦訳:レベッカ L. オックスフォード(著), 宍戸通庸 / 伴紀子(訳)(1994)『学習ストラテジー 外国語教師が知っておかなければならないこと』凡人社)
- Oxford, R. L. (2011) *Teaching and Researching Language Learning Strategies*. Longman.
- Rubin, J. (1975) *What the 'good language learner' can teach us*. TESOL Quarterly 9, pp. 41-51.
- 斎藤里美 / 田中望 (1999)「『学習ストラテジー』は学習者を幸福にするか」宮崎里司 / J. V. ネウストプニー(編)『日本語教育と日本語学習－学習ストラテジー論にむけて－』pp. 173-181, くろしお出版
- Scarcella, R.C. & Oxford, R.L. (1992) *The Tapestry of Language Learning: The individual in the Communicative Classroom*. Heinle and Heinle. (邦訳:スカーセラ / オックスフォード(著), 牧野高吉(訳・監修), 菅原永一 他(訳)(1997)『第2言語習得の理論と実践－タペストリー・アプローチ－』松柏社)
- Scharle, A. & Szabo, A. (2000) *Learner Autonomy: A guide to developing learner responsibility*. Cambridge University Press.
- 竹内理 (2003)『より良い外国語学習法を求めて』松柏社
- 田中望 / 斎藤里美 (1993)『日本語教育の理論と実際－学習支援システムの開発－』大修

館書店

土持ゲーリー法一 (2009) 『ラーニング・ポートフォリオー学習改善の秘訣』東信堂

Watts, D. (2011) *Introducing Language Learning Strategy Training in Japanese University English Language Courses*, 愛知県立大学高等言語教育研究所年報『ことばの世界』第3号, pp. 27-44.

本稿は、愛知県立大学高等言語教育研究所, 第12回言語教育研究会(2012年8月9日)での報告「学習ストラテジーとポートフォリオ導入に関する実践報告ーCommunicative English IIとドイツ語I(文法)の事例よりー」を基に, 考察を加えたものである。

[巻末資料1: SILL 調査の設問](オックスフォード(1994)を基に書き換え)

A. 記憶ストラテジーに関するもの

1. 英語ですでに知っていることと, 新しく学習したこととの関係を考える
2. 新出単語を覚えやすいように, 文の中でその新しい単語を使う
3. 単語を覚えるために, 新しい語の音と, その単語のイメージや絵を結び付ける
4. 単語が使われる場面をイメージして, 新しい語を覚える
5. 新しい単語を覚えるのに, 韻(似たリズムや, 音の並びなど)を使う
6. 新しい単語を覚えるのに単語カードなどのカードを使う
7. 新しい単語を身体で表現して覚える
8. 授業の復習をよくする
9. 新しい単語を覚えるのに, 単語が載っていた本のページ, 黒板や道路標識等の位置を記憶しておく

B. 認知ストラテジーに関するもの

10. 新しい単語を繰り返して書いたり, 口に出して言ったりする
11. 英語のネイティブ・スピーカーのように話すように心がける
12. 英語の発音練習をする
13. 知っている単語をいろいろな文脈で使う
14. 積極的に英語で会話を始める
15. 英語のテレビ番組や, 英語の映画を見る
16. 英語で読むのが楽しい
17. 英語でメモ, メッセージ, 手紙, 報告を書く
18. 英語の文章を読むときは, まず, ざっと全体を読みとって, もう一度, 最初に戻って注意深く読む
19. 英語の新出単語に似た単語を日本語(母語)の中に探す
20. 英語の中に, パターンを見つけようとする
21. 難しい英単語は分解して, 意味を知ろうとする
22. 日本語に逐語訳(単語を一つずつ訳すこと)をしないように心掛ける
23. 読んだり聞いたりしたことを, 英語で要約する

C. 補償ストラテジーに関するもの

24. 知らない単語があったら、意味を推測する
25. 英語で話しているときに、適切な言葉を思いつかないときは、ジェスチャーを使う
26. 英語で(話したり書いたりするときに)適切な語が分からないときは、新語を作る
27. 英語を読むとき、分からない言葉を一つずつ調べない
28. 他の人が次に英語で何というか、推測しようと心がける
29. 英語の単語が思いつかないとき、同じ意味を持つ語や句を使う

D. メタ認知ストラテジーに関するもの

30. いろいろな方法を見つけて、英語を使うよう心がける
31. 自分の英語の間違いに気づいたら、そこから学んで上達しようと努力する
32. 他の人が英語を使っているときは、集中して聞く
33. 優れた英語学習者になる方法を探そうとしている(模索している)
34. 英語の学習のスケジュールを立て、十分な時間をあてている
35. 英語で話しかけることのできる相手を探す
36. できるだけ英語で読む機会を探す
37. 英語の技能を高めるための明確な目標がある
38. 自分の英語学習の進歩について考える

E. 情意ストラテジーに関するもの

39. 英語を使うのに自信がないときは、いつもリラックスするように心がける
40. 間違いを恐れず、英語を話すように自分を元気づけている
41. うまくいったときは、自分をほめる
42. 英語を勉強しているときや使っているときに、緊張していたり神経質になっていないか、注意を向けている
43. 言語学習について記録をつけ、自分の気持ちを書きとめる
44. 英語を勉強しているとき、自分がどう感じているか、他の人に話す

F. 社会的ストラテジーに関するもの

45. 英語が分からないとき、ゆっくり話してもらうか、もう一度言ってもらう
46. 英語で話しているとき、ネイティブ・スピーカーに、間違いを直してもらう
47. 他の人と英語を練習する
48. 困ったとき、英語のネイティブ・スピーカーに助けを求める
49. 英語で質問をする
50. 英語話者の文化を学ぶように心がける

[巻末資料 2: Communicative English II で用いた教材]

Week 2 (1) Beliefs about Language Learning

Read each of the following statements about language learning. Decide whether you agree or disagree. Discuss your answers, and give reasons WHY with the other members of your group and try to reach a group consensus.

A = Agree D = Disagree

Put your answer first and the group's consensus second.

Belief	Agree /Disagree	
	You	Group
When I read in English, I should look up every word I don't know.		
Children are better language learners than adults.		
I can learn English in one year if I study really hard.		
Making errors is not always a serious problem.		
The teacher should try to correct all of my mistakes.		
Language games take up valuable class time.		
Watching television and movies in English are two of the best ways to learn English.		
I can learn a lot of English just by living abroad.		
Ability to explain grammar rules is essential to speaking English.		
I might learn the mistakes or accents of other students by speaking together with them.		
Learning about a foreign culture will help me learn the language.		

Week 2 (2) Strategies for Language Learning

Work in pairs. Which of the following strategies do you feel would most help you learn English over the next three months? Number your **top three**

(**1** =most important, **2** =second most important, etc). Which strategy do you feel would be **least useful**? Mark it with a ??

Together, think of as many **reasons** as you can for choosing your strategies.

I should ...

Strategy	Pair	Group	Reasons
find opportunities to use English outside of class.			
use my native language when I can't find the right English words.			

use facial expressions or gestures when I can't find the right English words.			
use visual aids when I can't find the right English words.			
not be afraid to make mistakes.			
try very hard not to make grammatical mistakes.			
keep a language journal, diary or notebook.			
find creative ways to remember important words and phrases.			
reward myself for my successes.			
read a lot in English, especially for enjoyment.			
study with a partner or in groups.			
record vocabulary and grammar points in a meaningful, systematic way.			
review work that you have finished often.			
other strategy			

Week 8 Language learning strategies mid-semester discussion

Discuss the following questions in pairs. Take notes to help you summarize your discussion to other students.

1. Which strategies did you choose? Why?
2. Have you been able to use any of them?
3. Which ones were useful? Talk about this.
4. Which ones were not useful? Talk about this.
5. Which ones would you recommend to other people? Why? Eg junior high students, senior high students, 1st year students at Kendai, adult learners.
6. Have you stopped or started using any of them?
7. Do you want to try any new ones?

Week 14 Discussion about LLS

Discuss the following questions in pairs, taking notes to help you remember what was said.

1. What was your opinion about the LLSs in the class at the start of the semester?
2. Do you still have the same opinion about these strategies as you did at the start of the semester? Why / why not?
3. Which strategies did you use this semester?
4. Did you change them at any time?
5. Which ones did you find useful? Please say why, giving examples.
6. Which ones did you find NOT useful? Please say why, giving examples.
7. Which strategies do you use at the moment? Do they work?
8. Will you use any of these LLSs in the future? Which ones and why?

[巻末資料 3: 学習記録の例 - ドイツ語 I (総合) 文法 -]

⑧ L. 9 練習問題・復習&学習ポートフォリオ 氏名: _____

授業で答え合わせをした後に、各問題のドイツ語の部分を書きなさい。(提出: 7月9日) 人見

④ (1) Mögt ihr keinen Fisch?
君たちは魚が好きなですか?

(2) Können Sie mir bitte helfen? helfen
私に少し手伝っていただけますか? an et denken

(3) Darf ich Sie kurz stören?
短い間、お邪魔してもいいですか?

(4) Du musst an deine Zukunft denken.
君は将来のことを考えないとダメ。

(5) Soll ich das Fenster öffnen?
私は窓を開けていいですか?

(6) Willst du noch eine Tasse Kaffee?
君も1杯コーヒーはほしくないか?

(7) Im Museum darf man nicht fotografieren.
美術館の中には写真を撮るはいいけません。

(8) Was darf es sein?
- Ich möchte einen Roch.
何にしたいですか? - 私はスカイが欲しいです。 nichts nothing

(9) Ich weiß nichts von dem Unfall. nicht not
私はその事故について何も知りません。 vom 事故
特定 von/dem 事故

④ (1) Seine Eltern soll jetzt im Ausland leben.
彼の両親は今、外国に住んでいるんだ。

(2) Das kann nicht wahr sein.
これは真実ではないんだ。

(3) Sie muss dich lieben.
彼が彼女を愛しているはず。

(4) Herr Bauer mag über 50 Jahre alt sein.
バウアーさんは50歳を超えている。

学習ポートフォリオは裏

④ 10. Mein Chef lässt oft mich Briefe schreiben.

私の上司は しばしば 私に 手紙を 書かせる。

(1) Ich sehe meinen Mann im Garten arbeiten.

私は 夫の 庭仕事をするのを見ている。

(3) Ich höre ihn ein Lied singen.

私は彼が歌を歌うのを聞きます。

聞く

essen → Essen

lesen → Lesen

er
seiner
ihm
ihn

am Essen
食事中に

④ 11. Beim Lesen muss ich eine Brille tragen.

Ohne Brille kann ich fast nichts sehen.

ohne 無し

Japanologie 日学

studieren

大学で学ぶ studieren

(1) Ich will in Deutschland Germanistik lernen.

- Dafür musst du weiter fleißig Deutsch lernen.

(2) Wollen wir heute abend trinken gehen?

- Leider muss ich ein Referat zu Haus schreiben.

Morgen soll ich von Studentenleben in Japan sprechen.

学習ポートフォリオ (6月20日~6月25日) (文法・講義・会話のすべての授業に関して)

・この1週間ドイツ語を勉強したときに実践した勉強方法、工夫したこと、試してみたことなど

① 予習にかまみたら、その時点でわからなかった箇所を

授業で集中して聞いた。

・この1週間ドイツ語を勉強して、理解できたこと、覚えたこと、進歩したことなど

② 長講義 行ったときの単語は、丸覚えの意味がわからなかった。

・この1週間ドイツ語を勉強したときに感じた問題点、わからなかったこと、次の目標など

③ 単語を覚える。(毎日、少しでも確認する)

[巻末資料 4:ドイツ語 I (総合) 文法のフィードバック]

ドイツ語 I (総合)[文法] ポートフォリオ(5月30日～7月4日提出分)から

勉強したときに実践した勉強方法, 工夫したこと, 試してみたことなど

【単語・語形変化・文などの暗記】

- ・できるだけ書いたり音読したりして覚える
- ・新出単語を単語帳に書き加える
- ・熟語などは辞書にマーカーで強調する ←印象を強くした方が覚えられる
- ・文を赤シートで隠して覚える
- ・練習問題の文を暗記する ←語学では暗記が必要
- ・電車内で教科書を読む, 暗記する
- ・独訳できるように暗記する

【その他】

- ・単語・文を書きながら音読する ←これはとても多かった
- ・絵で見るドイツ語 ←Bildwörterbuch「絵入り辞典, 図解辞典」なども単語を覚えるのに有効
- ・一度辞書を使わずに問題を解く
- ・練習問題を何回も解きなおす ←とても効果的な方法
- ・今まで習った文法の復習 ←これも多かった。語学に予習と復習は不可欠
- ・よく間違える単語や文法をノートに書き出して集中的に覚える
- ・単語カードに独文のみを書いて, 独文で覚える。英語と比較したり, 長い単語は分解して意味をとらえる。
- ・定動詞を□(四角), 前置詞を○(丸)で囲ったりして, ノートを見やすくする
- ・毎日通学時に NHK のドイツ語を聴く
- ・ドイツ語の歌をスマホに入れて聴く
- ・ドイツ語のミュージカルを聴く
- ・ドイツ語の映画をドイツ語の字幕で見る

勉強したときに感じた問題点, 分からなかったこと, 次の目標など

- ・男性弱変化名詞に気をつける
- ・名詞の性, 名詞の複数形を確実に覚える
- ・不規則動詞の現在人称変化をもう一度確認する
- ・辞書で動詞を調べた時, 何格を支配するのかを確認する ←とても重要なこと!
- ・前置詞の格支配を覚える
- ・前置詞の使い分け・用法が分からない
←英語と同様, 前置詞にはいろいろな意味・方法があるので, 出てきたものを少しずつ確実に覚えること
- ・複合名詞の性は最後の名詞で性が決まるが, die Bundesrepublik Deutschland は, Deutschland の中性ではなく, 女性なのか?
→Bundesrepublik の Republik が女性名詞だから。Bundesrepublik と Deutschland は同格。

•kein と nicht の使い分け

→不定冠詞 ein がついた名詞と無冠詞の名詞の否定には kein を使う。それ以外は nicht を使う

•nicht の位置 →L.12 で説明する

- 作文の時, 語順がいまいち分からない →基本的に日本語と同じ
- 文法を覚えても文章にすることがまだできないので, 練習する
- 予習しているときに文章を読んでも理解できなくてどうまとめたらいいいのか分からない
- 枠構造の優先順位が分からない
- もっとドイツ語に時間をさく!
- 次のテスト, がんばります! / テストがんばる! ←みんながんばるように

理解できたこと, 覚えたこと, 進歩したことなど

- 文を作るとき, 前よりも時間がかからなくなった気がする ←上達している証拠
- 音読のおかげで, 語順に困ることが減った(覚えた文をさっと言えたら, 分かる)
- 一度出てきた単語がまた出てきたとき, 少しずつ意味が分かるようになってきた
- 知っている単語数が増えてきた
- 覚えることは多いように見えるが, 案外共通点が多く, 文法は覚えやすいと思った。
←これからも, 今まで習った語形変化が(少し形を変えて)出てくるので, 語形変化はそのつど必ず覚えること